

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年 3月 31日

事業所名 みらいく 大岡校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	5	3部屋に分散する	雨の日は狭いので体育館を利用
	2	職員の配置数は適切である	10		パートさんを上手に活用している	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	2		肢体不自由児は一階で過ごす 報連相はできている
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	1	そうじをしている おもちゃはまとめている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	10		月に一回ケース会議をしている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10		LINEで常に評価をうけている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10		評価を受ける →職員会議 →会報で公開	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	2	相談支援事業所で 評価をしてもらっている	件数が少ないので多くする
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10		外部研修、内部研修を 月一回行っている	
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10		受付→利用開始 →定期的なアセスメントをしている	児発管欠如の際にできなかったので 管理者が作成していた
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	5		統一されたツールがないので決める
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10		担当者だけでなく ケース会議で話し合い 具体的に支援内容を設定している	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10		全職員共通理解するよう 会議で発表している	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	10		チームで考えている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	2		目新しいプログラムを検討中
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10		できている	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10		朝礼で発表し確認している	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10		終礼で発表し確認している	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10		1人1人の記録をつけて検証している	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10		相談支援事業所と 共に見直しをしている		
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10		管理者と個々の担当者が 2人で参画している		

関係機関や保護者との連携	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10		ケース会議に参画している	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	5	母を通じて病院のMSWと連携したことはある	必要があれば声をかけて下さるだろうが特に必要がなかった
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	10		母を通じて病院と連絡方法を決めた	該当者が1人なのでこまらない
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10		利用開始前にごあいさつに行き顔の見える関係を作っている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10		利用開始前にごあいさつに行き顔の見える関係を作っている	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10		コンサルテーションをしている	みらいくは専門職が揃っているのでコンサルテーションする側です
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		10		そのような機会がないので機会を作る
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	8	呼ばれたら言っている	自ら会議を設定してもよいかもしれない
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10		毎日LINEや電話や送迎時に話している	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	10		公認心理士が随時行っている	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10		契約時に説明している	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10		定期的に保護者へ説明し同意を得ている	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10		ほぼ毎日、公認心理士が保護者から相談を受け助言している	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		10		保護者会を行うようにする
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10		申し入れは職員で共有し話し合いに迅速に対応している	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10		2ヶ月に1度は会報を配布している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10		注意している	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	3	配慮しているつもり	自分達は行っている配慮の他に何か方法があればやりたい
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		10		そのような機会がないので検討する
	非常時等の	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10		決められた回数で実施している 実施した写真は保護者に送っている
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	5	大掛かりではないが年に3回おこなった	もう少し大がかりな訓練をしてみようと思っている
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10		必ず確認している	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10		情報を必ずもらっている ので指示に従っている	

対応	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		10		これからヒヤリハット事例集を作成し共有する
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10		職員会議で必ず研修している	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		10	身体拘束については今まで支援計画に明記していないので明記するようにする	